

教育振興運動推進事業

自治体名

岩手県紫波町

震災後の地域の状況・仮設住宅数

地区公民館が中心となって、被災地から移住した住民との交流会を開いたり、被災地へ手作り味噌を寄贈したりするなどの活動をしている。(震災による被害:軽傷1、建物被害多数(倒壊2、天井落下2等)、道路地割れ2等)

<取組名>

～ 紫波っ子サイエンス教室 ～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
		○		紫波町教育振興運動推進委員会
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
		73	6	紫波町立紫波第一中学校 他

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
	○	○			()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
	○			○	()

「七夕(旧暦)の夜、星に願いを！ 第1回紫波っ子サイエンス教室天体観測会」

8月2日、旧暦では七夕のこの日に、今年第1回目の「紫波っ子サイエンス教室天体観測会」が開催されました。会場の紫波第一中学校校庭には100名を超える親子が集まり、夏の夜空を彩る星々を楽しみました。

紫波天文同好会や紫波一中生、紫波総合高校生の操作する望遠鏡で、月や土星、火星の他、ヘラクレス座M13星団やこと座リング状星雲なども観察しました。

また、地面に寝ころんで夜空を見上げ、夏の大三角や織姫、彦星の伝説など星座にまつわるお話を聞いたり、流れ星を見つけて願い事を考えたりしました。沢山の人工衛星が光りながら動いていく様子に驚きました。

参加した日詰小の佐藤ほのかさんは「つきをはじめてみたのであながあいているのがこころにのこりました。」赤石小の松野ふみや君は「土星のわっかがすごかった。ぎんががみたい。」と感想を述べています。

講師の長澤成喜氏は「空を見上げ星を楽しむ気持ちを大切にしてほしい。今回参加できなかった人は、次回の天体観測会に是非参加してほしい。」と話していました。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

- ・ 岩手県内陸部に位置する当町では、東日本大震災による津波等の大規模災害は発生しなかったが、被災地の復興に向け、地区公民館等を中心に各種支援活動を継続して展開してきた。
- ・ 平成25年8月9日(金)、秋田県から岩手県の中央部はこれまでに経験したことのないような大雨に襲われ、各地で大規模な浸水被害や土砂崩れなどが発生した。当町では、1時間当たりの観測雨量が観測史上最大の71ミリを記録。短時間に大量の雨が降ったことにより、多くの河川や水路で水が溢れ出し、約300世帯の住家で浸水被害が発生した。この他、土砂崩れや道路の崩壊、農地災害、倒木などが多数発生したことから、現在も復旧に向けて調査や工事が続けられている状況である。

◇住民等からの要望・必要な取組

- ・ 観測史上最大の集中豪雨に襲われ、町民の自然災害に対する不安は一段と高まっている。
- ・ 地域全体で防災に対する意識を高めるとともに、地域コミュニティの構築に取り組んでいく必要がある。



体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・ 「学校・家庭・地域が連携して子どもの生きる力を育む」ことを目標に、紫波町教育振興運動推進委員会が町全域の教育振興運動を推進している。
- ・ 教育振興運動の一環として、科学や自然への興味関心を高めるとともに、世代間の交流を図り、地域コミュニティの構築を図る「紫波っ子サイエンス教室」を実施している。
- ・ 紫波天文同好会や紫波第一中学校、紫波総合高校の協力を得ながら、年間2回の天体観測会のほか、実験教室等をあわせて6回実施した。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・ 広報誌「紫波の教振」や町ホームページ等による周知により、多くの町民の参加を促すとともに、教育振興運動に対する町民の理解を高める。
- ・ 紫波第一中学校や紫波総合高校の生徒等にボランティアスタッフとして参加してもらい、年代を超えるふれあいを図る。



成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- ・ 天体観測会の実施により、親子で季節の天体を観察することを通じて、自然への興味関心を高めることができた。
- ・ 町内の関係団体や中・高校生の参画を得ることで、地域を牽引していくボランティアの育成と、地域全体で子どもを育てる意識を高めることができた。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

- ・ 紫波っ子サイエンス教室の年間総参加者数は576名であり、当初の計画を大きく上回った。また、ボランティアスタッフとして、のべ73名の参画も得ることができた。多くの町民の参加により、学びを通じた地域コミュニティの構築を図ることができた。

◇課題や今後の展望

- ・ いつどこで起こるか分からない自然災害へ備えるため、地域コミュニティを構築する取組を継続して実施する必要がある。今後も、学校・家庭・地域が連携し、「みんなでまなび、みんなでつながる紫波の教振」をスローガンに、児童生徒の健全育成に取り組んでいく予定である。